

令和 4 年 4 月 15 日

(※受付番号 )

教 育 長 様

研究コース
グループ研究 A
校園コード（代表者校園の市費コード）
661456

代表者 校園名： 大阪市立今里小学校  
 校園長名： 松永 かおり  
 電 話： 06-6981-8800  
 事務職員名： 粟田 有加  
 申請者 校園名： 大阪市立今里小学校  
 職名・名前： 主務教諭 藤井 優美子  
 電 話： 06-6981-8800

## 令和 4 年度 「がんばる先生支援」研究支援 申請書

◇本研究の支援を受けたく、次のとおり申請します。

1	研究コース	コース名	グループ研究 A	研究年数	新規研究（1年目）
2	研究テーマ	<b>子どもの可能性を引き出す「個別最適な学び」「協働的な学び」の追究～教育DXの推進と1人1台端末を生かしたカリキュラムデザインの構築～</b>			
3	研究目的	<p>テーマに合致した目的を端的に記載してください。</p> <p>本校は昨年度、教育工学会(JAET)の先進校に選定された。そこで、大阪市教育振興基本計画の最重要目標にも掲げられているように、多様な児童の可能性を引き出し、ゴール設定型学習と「個別最適な学び」を「協働的な学び」につなげることで教育DXの実現を目指す。ICTを効果的に活用したこれまでの実践をもとに、学習の基盤となる資質能力を育成し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行い、1人1台端末を生かしたカリキュラムデザインを生み出す。</p> <p>○児童の情報活用能力の実態把握のために活用してきた「情報活用能力チェックリスト」をオンライン学習、1人1台端末活用の場面や方法に即したものに改善する。</p> <p>○これまでに取り組んだ実践に、1人1台端末を生かした実践を最適に組み合わせることにより、年間を通して教科横断的に情報活用力を育成するためのカリキュラムマネジメントとその一般化を図る。</p> <p>○「個別最適な学び」「協働的な学び」の追究をめざした授業展開により、情報活用能力とそれを支える言語能力、問題発見・解決能力を高める。</p>			
4	研究内容	<p>継続研究は、前年度の成果と課題を分析した内容を踏まえて記載してください。</p> <p>探求的な学習の過程の中で、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を追究した授業展開について実践をもとに研究し、児童の情報活用能力とそれを支える言語能力、問題発見・解決能力の向上を図っていきたい。また、オンライン学習や1人1台端末活用の場面が増えたことにより、これまでに活用してきた「情報活用能力チェックリスト」のチェック項目の再検討と、それを活用した児童の情報活用能力の推移を検証する。</p> <p>○「個別最適な学び」と「協働的な学び」を追究した授業改善と、教員の指導力・授業力の向上。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの児童の興味関心に応じた学習活動や学習過程を想定し、指導者や児童がICTを効果的に活用することで、「個別最適な学び」を取り入れる。</li> <li>・学習過程において、他者との多様な学び合いや他校、他地域との交流を生かした「協働的な学び」を取り入れる。</li> <li>・個で取り組んだ「個別最適な学び」の成果を「協働的な学び」に生かし、その成果を「個別最適な学び」に還元するサイクルを確立することで、教育DXの実現に向けた授業展開の工夫をする。</li> <li>・ICTを活用した協働的な学習の効果的な授業を実践する。</li> <li>・遠隔交流授業の年間を通じた計画を作成し実施する。</li> </ul> <p>○「情報活用能力チェックリスト2022年版」を活用することで、オンライン学習や1人1台端末を活用する場面に合った情報活用能力の向上。</p> <p>・オンライン学習や1人1台端末活用を意識した「情報活用能力チェックリスト2022年版」及びチェック項目の改善をする。</p> <p>・チェック項目を「ICT操作スキル」「情報の収集、整理・分析、まとめ・表現」「情報モラル」の3つに分類し、教員・児童がそれぞれの項目をより意識した指導や学習ができるようにする。</p> <p>・「情報活用能力チェックリスト2022年版」を活用した児童の情報活用能の実態把握と課題解決力向上の要素を取り入れた授業の実践及び児童の情報活用能力の推移の検証を行う。</p>			

研究コース

グループ研究A

代表校校園コード

661456

代表校園

大阪市立今里小学校

校園長名

松永 かおり

		日程や内容など、研究の過程がわかるように詳細に記載してください。
5	活動計画	<p>4月 研究テーマ・研究の柱・実践内容・見込まれる成果等の検討 研究推進全体研修会 新チェックリストの検討</p> <p>5月 研究授業年間計画作成 (公開授業に向けた授業者、指導案のひな型、研修日程・内容等) 「情報活用能力チェックリスト2022年版」実施・分析（第1回）</p> <p>6月 授業研究会(講師招聘)</p> <p>7月 授業研究会(講師招聘)</p> <p>8月 情報教育校内研修会</p> <p>9月 授業研究会(講師招聘)</p> <p>10月 授業研究会(講師招聘)、 「情報活用能力チェックリスト2022年版」実施・分析（第2回）</p> <p>11月 授業研究会(講師招聘)</p> <p>12月 授業研究会(講師招聘)</p> <p>1月 児童への「情報活用能力チェックリスト2022年版」実施・分析（第3回）</p> <p>2月 研究発表会（参加者へアンケート） 公開授業・研究発表を行い、本年度の成果を発表 指導講評・講演会（園田学園女子大学 堀田博史先生招聘）</p> <p>3月 教員へのアンケート実施 来年度へむけて、本年度の成果と課題を分析 1人1台端末活用の年間計画・単元計画をHPにて公開</p>
6	見込まれる成果とその検証方法	<p>大阪市教育振興基本計画に示されている、<u>子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上</u>および<u>教員の資質や指導力の向上</u>について、見込まれる成果を端的に記載し、その成果について、客観的な指標により必ず数値で示すことができる検証方法を記載してください。</p> <p><b>【見込まれる成果1】</b> 個で取り組んだ「個別最適な学び」の成果を「共同的な学び」に生かし、その成果を「個別最適な学び」に還元するサイクルを確立することで、児童の情報活用能力とそれを支える言語能力、問題発見・解決能力の向上</p> <p>《検証方法》 学力経年調査の国語科の記述式の回答結果において、「自分の考えを書く」出題分野の正答率を60%以上にする。また、学力経年調査や年度末の校内アンケートにおいて、「学級の友だちと話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができますか。」に対して肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。</p> <p><b>【見込まれる成果2】</b> 児童が主体的にICTを活用し、協働的な学びや言語活動を行うことによる児童の情報活用能力の向上</p> <p>《検証方法》 児童に対し情報活用能力チェックリストを年度当初、および年度末に実施し、全学年とも平均を10ポイント向上させる。</p> <p><b>【見込まれる成果3】</b> 教職員のICT活用スキルや授業力の向上</p> <p>《検証方法》 教員のICT活用指導力アンケート（文科省「学校情報化調査」）において、すべての項目における平均値が3.5以上となるようにする。</p>

研究コース

グループ研究A

代表校校園コード

661456

代表校園

大阪市立今里小学校

校園長名

松永 かおり

6	見込まれる成果とその検証方法	<p>【見込まれる成果4】 ○ICTを活用したこれまでの実践を整理し、学習の基盤となる資質能力を育成し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善と、1人1台端末を生かしたカリキュラムデザインの一般化。</p> <p>『検証方法』 1人1台端末活用の年間計画・単元計画を作成し、HPに公開し一般化を図る。</p> <p>【見込まれる成果5】</p> <p>『検証方法』</p>				
7	研究成果の共有方法	<p>◆研究発表【必須】 報告書提出日（令和5年2月24日）までに必ず行ってください。</p> <p>○研究発表の日程・場所（予定）</p> <table border="1" data-bbox="414 979 1033 1051"><tr><td>日程</td><td>令和 5 年 2 月 8 日</td><td>場所</td><td>大阪市立今里小学校</td></tr></table> <p>◆代表校園HPでの共有【必須】</p> <p>他の共有方法を計画している場合は記載してください。</p>	日程	令和 5 年 2 月 8 日	場所	大阪市立今里小学校
日程	令和 5 年 2 月 8 日	場所	大阪市立今里小学校			
8	代表校園長のコメント	<p>本研究は、大阪市教育振興基本計画の最重要目標3の学びを支える教育環境の充実の基本的な方向6「教育DX（デジタルトランスフォーメーション）」にも書かれているように、日常的に子どもたちがICTを主体的に活用し、多様な情報を選択・活用しながら情報活用能力を高め、主体的な学びを通じて育成される資質や能力を円滑な学びにつなげていくことを目的としています。そのために、子どもの可能性を引き出す「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現を追究した授業展開について深く掘り下げていきます。さらに、ICTを効果的に活用し、これまで本校の研究成果を最適に組み合わせることで、教育の質の向上が見込まれます。そして、これらの研究内容は、令和4年3月に改訂された「大阪市学校教育ICTビジョン」のめざす子ども像を育てるにもつながります。</p> <p>なお、本研究を進めるにあたっては、園田学園大学の堀田博史教授にご協力・ご指導いただくな承をいただいております。</p>				